2024年3月　変額保険運用状況

SOMPOひまわり生命保険株式会社

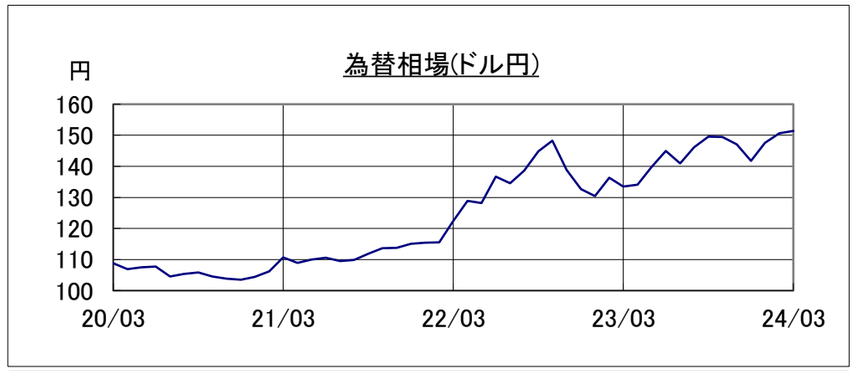
市場の動向

【金利】

２月末に０．７％程度だった長期金利（１０年国債利回り）は、３月末は０．７％台前半と上昇となりました。長期金利は、中旬にかけて、春闘での高い賃上げや日銀の早期金融政策修正観測から、上昇しました。中旬以降は日銀がマイナス金利政策解除等の政策修正を行ったものの、緩和的な金融環境が続くとの見方から上昇幅を縮小させ、月間では小幅上昇となりました。

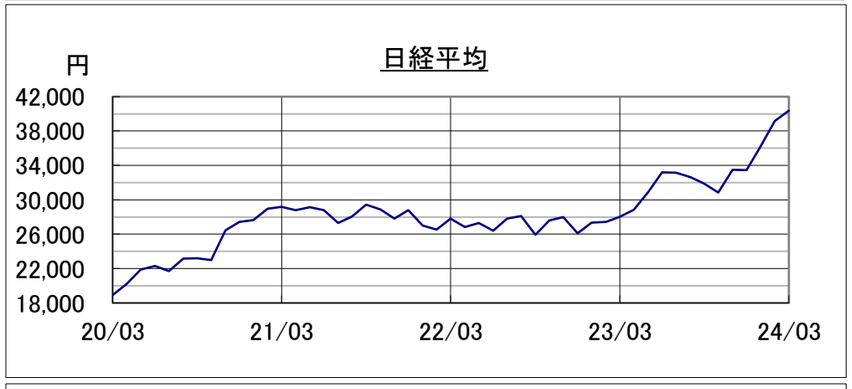
【外国為替】

２月末に１５０円台後半だったドル円は、３月末には１５１円台半ばとなりました。ドル円は、上旬は日銀の金融政策修正観測や米金利低下等により、円高ドル安が進行しました。中旬以降は、日銀がマイナス金利政策解除等の政策修正を行ったものの、緩和的な金融環境が続くとの見方から円安ドル高が進行し、月間でも円安ドル高となりました。２月末に１６３円台前半だったユーロ円は、３月末も１６３円台前半と横ばいになりました。ユーロ円は、上旬は、日銀の金融政策修正観測や欧州での早期利下げ期待等から、円高ユーロ安が進行しました。中旬以降は、日本ではマイナス金利政策解除後も緩和的な金融環境が続くとの見方や欧州での景況感改善等から円安ユーロ高になり、月間では横ばいとなりました。



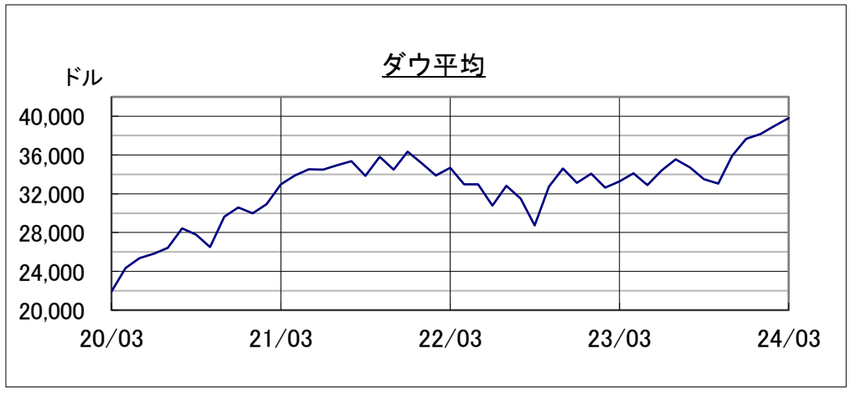
【日本株式】

２月末に３９，１６６円だった日経平均は、３月末には４０，３６９円と上昇しました。上旬は、日銀の早期金融政策修正観測を受け、下落しました。中旬以降は、日銀がマイナス金利解除等の政策修正を行ったものの、緩和的な金融環境が続く見方が好感されたほか、米国株高に追随して上昇し、月間では上昇となりました。



【外国株式】

２月末から３月末にかけて、米国市場ではＮＹダウは２．１％上昇、ＮＡＳＤＡＱは１．８％上昇しました。欧州市場ではＦＴＳＥ１００（英国）は４．２％上昇、ＤＡＸ（ドイツ）は４．６％上昇しました。米国市場は、上旬から中旬にかけては、米物価指標の上振れにより利下げ期待が後退したことで、上値が重く推移しました。中旬以降は、米金融当局の高官が年内利下げへの見通しを維持したことが好感されて上昇し、月間でも上昇となりました。欧州市場は、上旬は、欧州金融当局の物価見通し引き下げを受けて、早期利下げ期待から、上昇しました。中旬以降は、英国での軟調な雇用指標を受けた早期利下げ期待が強まったことや、欧州の景気指標の改善が好感されたことで上昇し、月間でも上昇となりました。



お客様にご確認いただきたい事項

ご負担いただく費用などについてご確認ください。

●お払込みいただいた保険料のうち、その一部はご契約時およびご契約後に下記の費用等にあてられ、それらを除いた金額が特別勘定で運用されます。

〇保険契約の締結、維持に係る費用

〇特別勘定の運用に係る費用

〇死亡保障などに係る費用
※控除される費用は、契約年齢・性別・保険料払込期間等により、契約ごとに異なるとともに、保険期間中変動します。そのため、費用の合計額や計算方法を表示することはできませんので、ご了承ください。

●契約日から１０年以内、かつ保険料払込期間中に解約・減額された場合、解約日の積立金額から経過年数に応じた所定の金額（解約控除）を控除した金額が解約返戻金額となります。
※上記期間経過後は、積立金額と解約返戻金額は同額となります。
※保険料払込方法が一時払の場合は、解約控除は発生しません。

運用リスクについてご確認ください。

●変額保険は、保険金額や解約返戻金額が特別勘定資産の運用実績に基づいて増減する仕組みの生命保険です。

●特別勘定資産は、日本の株式や公社債および外国の株式や公社債などで運用されます。そのため、株価や公社債価格の変動リスク、為替の変動リスク、信用リスクなどの運用リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる解約返戻金額が払い込まれた保険料の合計額を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。なお、各特別勘定の運用方法は、以下のとおりです。

〇国際型　外国の株式を中心に一部日本の株式を組入れ運用します。

〇株式型　日本の株式を中心に運用します。

〇総合型　日本の公社債・外国の公社債を中心に、一部日本の株式および外国の株式を組入れ運用します。

●各特別勘定への繰入割合や積立金の構成割合を変更した場合には、選択した特別勘定の種類によっては運用対象や運用リスクの種類・大きさが異なることとなりますので、ご注意ください。

●変額保険の主契約の死亡・高度障害保険金は、契約時に定めた基本保険金額が最低保証されますが、解約返戻金は最低保証されません。